

2026 年度

大阪樟蔭女子大学大学院
人間科学研究科修士課程

専門科目

臨床心理学
心 理 学

専攻	臨床心理学 専攻							
受験番号								
氏名								

注意：受験番号，氏名を記入すること。

【Ⅱ期：2026年2月21日実施】

専門科目の問題は次のページから始まります。

問題 1

I. 次の事例をよく読んで (1) ～ (3) について述べなさい。

13 歳 中 1 の女子

「授業がわからなくなって学校に行くことが不安になった。不登校ぎみである」ことを主訴にカウンセリングに来られました。カウンセリングの前に WISC-5 とバウムテストのテストバッテリーを組んで心理検査を実施することになりました。

- (1) WISC-5 とバウムテストのテストバッテリーについて、それぞれどのような検査でありクライアントのどのような側面を明らかにしようとしているのか、述べなさい。

- (2) 検査者として検査をするにあたって、どのような姿勢であることが望ましいか心がけることについて述べなさい。

- (3) 検査結果のフィードバックを学校と本人および保護者にすることになりました。
それぞれどのような点に気を付けてフィードバックを行うか述べなさい。

II. 以下の①～③の文章は、DSM-5-TRにおいて、ある精神疾患の診断基準の一つとして記されている内容である。その診断基準が記された精神疾患を【語群】A～Fの中から選んで、解答欄に記号を記入しなさい。

- ① 他の状況で話しているにもかかわらず、話すことが期待されている特定の状況（例：学校）において、話すことが一貫してできない。
- ② 大人の養育者に対する抑制され情動的に引きこもった行動の一貫した様式で、苦痛な時でも、めったにまたは最小限にしか安楽を求めない、または安楽に反応しない。
- ③ 他人からの世話および支えを得るために、不快なことまで自分から進んでするほどやりすぎてしまう。

【語群】

- A. 脱抑制型対人交流障害 B. 自閉スペクトラム症 C. 回避性パーソナリティ
D. 場面緘黙 E. 依存性パーソナリティ障害 F. 反応性アタッチメント障害

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

問題 2

I. 心理療法には様々な技法があり、クライアントに最も適した方法を選択することが望ましい。
下記の 1) ～3) のクライアントに対して、①心理療法の対象とする様式、②媒介とする技法
の中からあなたが最も適切だと判断するものを選択して記入しなさい。

「その他」を選択した場合には、①、②とも具体名を記しなさい。

次に、選択理由とその心理療法をどのような手順で行うかについて簡潔に説明しなさい。

① 個人療法、集団療法、家族療法、その他

② 言語、遊戯、箱庭、演劇、動作・身体活動（自律訓練法、行動療法を含む）、芸術表現
（音楽演奏、ダンス、描画、コラージュなど）、その他

1) 5 歳の男児。夜驚を主訴に来談。

2) 45 歳のパート勤務の女性。家族との関係と身体症状を主訴に来談。

3) 70 歳の男性。抑うつ感を主訴に来談。

1) ① _____

② _____

2) ① _____

② _____

3) ① _____

② _____

問題 3

I. 以下の 6 つの用語から 3 つを選んで、できる限り分かりやすく説明をなさい。

解答欄の () に選択した項目の番号を記入すること。

- (1) 尺度水準
- (2) リーダーシップ
- (3) 社会的学習
- (4) 無作為抽出
- (5) 接近・回避型コンフリクト
- (6) 人間性心理学

[解答欄]

()

()

()

II. 次の①～⑩について、その内容に該当する心理学の専門用語（単語）を答えなさい。

- ①他者に対して、言語を介して自分自身に関する情報を積極的に伝達する行為。
- ②知覚過程における全体性を主題とし、19世紀末から20世紀前半にかけてドイツ語圏を中心に展開された心理学の一派の呼び名。
- ③援助者が必要とされる状況において、一般に複数の他者の存在によって“援助行動”が抑制されること。
- ④未知の他者に関する情報を処理・統合し、その他者にかかわる“表象”を形成すること。
- ⑤基準変数（y）をこれとは別の説明変数（x）を用いて予測または説明するための分析。
- ⑥不安感の処理や曖昧な状況での理解・解釈などを目的として、人々の間で連鎖的に伝達される根拠不明で未確認の社会情報のこと。
- ⑦ある刺激に対する認知や反応が、その前後に現れる別の刺激や周辺状況の影響を受けて変化する事。
- ⑧心理学実験を実施する際に効果を調べようとする変数に操作が加えられた実験群に対して置かれる群。
- ⑨今まで普通に仕事をしていた人が、職務ストレスのために急にあたかも機械が負荷に耐えきれずに動かなくなったように意識を失い動けなくなる現象。
- ⑩思い込みにとらわれず証拠に基づく合理的（理性的・論理的）で偏りのない思考。

①		②	
③		④	
⑤		⑥	
⑦		⑧	
⑨		⑩	